



つるがしましな
鶴ヶ島市内から ありがとう の声が届いています！



愛ちゃんと希望くん
 ©中央共同募金会

「赤い羽根募金・・・耳にするけど、どのように使われているの？」と思われる方も多いと思います。
鶴ヶ島市内での使い道や、実際に共同募金の助成を受け活動をしている団体からのありがとうの声を紹介します。



ふれあい・いきいきサロンのために（※助成団体：38団体）
 高齢者や障がいのある方、子育て世代などが身近な場所に集い、食事や健康体操、おしゃべりなどを通じて楽しい仲間作りを行っています。

「ちゅうちゅうサロン」（鶴ヶ丘地域）
 いただいた補助金で作製したぬいぐるみを福祉施設に寄与することができ、お年寄りの方達の喜んでる姿を見て作った私達もうれしかったです。



「サロン“プレーパーク”」（富士見地域）
 コロナ禍の影響で、子どもたちとの事業はすべて中止せざるを得なく、残念な2020年度でした。しかし、スタッフで顔を合わせてのミーティング、スタッフのみでの子どもの公共工事応援隊を可能な限り施し2021年度へエネルギーをつなぐことができました。



囲碁将棋倶楽部（藤金地域）
 囲碁将棋を指すことにより脳の活性化と豊かな老後生活のための健康維持に役立っています。
 倶楽部の財産となる将棋盤や書籍などの備品がそろえられ非常に助かっています。



小・中・高校生の福祉の学習のために（※助成団体：13校）
 福祉体験講座や高齢者等との交流など
 福祉教育・ボランティア学習を実施しています。

鶴ヶ島中学校
 （鶴ヶ島中学校より ありがとうメッセージ ※一部抜粋）
 お陰さまで、本年度も福祉教育・体験学習を実施することができました。コロナ禍の中、7分野での活動を実施することができました。生徒達は、充実した時間を過ごすことができ、感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



鶴ヶ島中学校の生徒たちが地域の方と糸電話でトークフォークダンスを実施し交流

埼玉県内の社会福祉施設・団体のために
 （※助成団体：県内199施設・団体）
 県全体の福祉の向上のため、身近な社会福祉施設や団体等に助成しています。



災害時にボランティア等を支援するために
 共同募金会は、毎年募金実績額の3%以内の額を大規模災害に備え、「災害等準備金」として、積み立てています。

令和元年7月に発生した、台風第19号による県内被災地に設置されたボランティアセンターの運営費用や身近な社会福祉施設や団体等に助成されています。

